

都立第四商業高等学校(全日制課程)

【校長】 昼間 一雄
【生徒数】 459名
【学級数】 15学級



【実態・目標】

- 様々な健康課題があるが、受診に結び付かないことがある。
- ⇒自己の健康について関心を持ち、正しい知識や生涯の健康について考えを深めようとする。医療についての必要性を理解する。
- 健康診断の結果、全体で痩せの生徒が5.0%、肥満の生徒が9.0%であった。
- ⇒食事と体の関係について理解でき、食生活を改善する。
- 性に関する正しい知識の不足や男女の人間関係の築きについて課題がある。
- ⇒正確な情報を学習する。相手を尊重し、自分を大切にす。

目標

自らの健康への意識を高め、生涯健康を保持増進できる資質能力の育成

【課題・改善】

- 保健の授業で学んだ知識を生かし、自らの健康課題を解決する力を身に付けることが必要である。
- ➔【今後の取組】
- 教科横断的に学校全体で健康教育の充実を図っていく。
- 専門家による保健講話の継続
- 健康診断結果を活用した保健指導の充実
- 健康診断後、未受診の生徒や自覚症状のある生徒を受診につなげる。
- 生徒がより自分事として捉えられるように授業を工夫していく。

【取組】

- 保健における授業単元計画(第2学年)
単元「妊娠・出産と健康」
- 教員の指導力向上のため各種研究会に参加
 - ・東京都特別支援教育性教育研究会
 - ・特定非営利活動法人レインボーハート okinawa 研修会
- 産婦人科医を招へいた授業の実施
 - ・対象学年:2 学年
 - ・講師:産婦人科医
 - ・研究主題:「おとなになるまでに知っておきたい自分のカラダと健康について～幸せに生きるためのライフスキルを身につけよう～」

【成果】

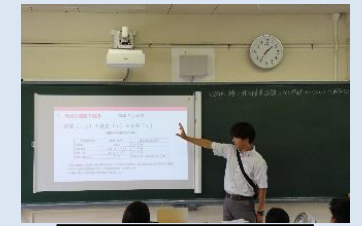
- 生徒の意識に関する成果
生活習慣や自己の人生を健康に過ごすことについて意識を向けることができた。困ったときは産婦人科医等の専門家に相談しようという意見が聞かれた。また、保健室で性に関して相談する生徒が増えた。
- 生徒の相互理解に関する成果
相手の立場になって考える、尊重することをより意識した発言が見受けられるようになった。
- その他(教員の授業改善など)
一般需用費で購入したモニターを保健室前に設置し、熱中症や健康管理等について生徒に注意喚起をすることができた。

【取組(詳細)】

○保健の授業における生涯の健康に関する学習

保健の授業では、生涯にわたって健康に生きていくために母体の健康の維持について学習した。喫煙、飲酒、栄養不足に焦点を充てて、母体と胎児にどのような影響がでるのかを、スライドを用いて説明した。また、BMIの求め方を学び、自分のBMIを算出することができた。

HRでは「生涯の健康の大切さを考えるリーフレット」を活用し、事前に作成した動画を見てリーフレットに沿った形式で自己の健康課題について理解を深めた。



保健の授業風景



事前学習の様子

○教員の指導力向上のために性教育研究会に参加

- ・東京都特別支援教育性教育研究会に参加
講演「性教育に関する基礎講座」「卒業後につながる対人関係」
- ・特定非営利活動法人レインボーハート okinawa
LGBTQ・性の多様性オンライン講座に参加

○産婦人科医を招へいた公開授業の実施

<授業内容>

- ・思春期の男女の身体の変化
- ・性の多様性・LGBTQ
- ・コミュニケーションスキル・性的同意
- ・妊娠・出産
- ・性感染症
- ・子宮頸がんとHPVワクチン

<生徒の様子>

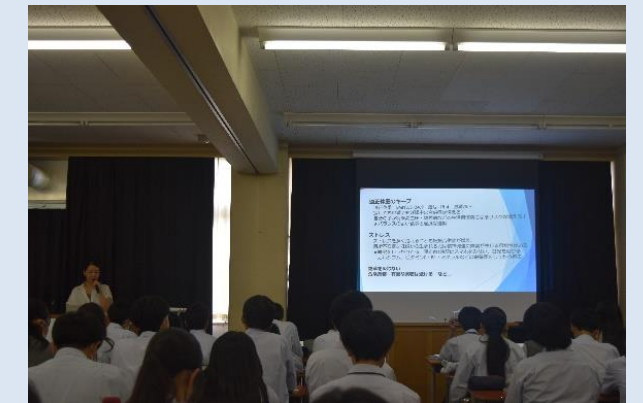
非常に興味をもって授業を聞いていた。

<生徒の感想>

- ・性の関心が増えてくる時期だからこそ、このようなオープンに正確な情報を教えてくれる講座はとてもありがたかった。
- ・自分の性や他人の性に関心を持ち、尊重し、支えられれば良いなと思いました。これからも性や健康など様々なことと向き合いながら、自分の人生を築いていきたいです。
- ・自分の生活習慣によって産まれる子供にも悪影響を与えてしまうということを今回改めて実感し、自分の生活を見直して体調管理をし、不安事や悩み事は周りの大人に相談しようと思った。

<外部人材を活用した授業について>

医師から正確な情報を得ることができ、実生活に結び付く内容であった。男女の人間関係やお互いを尊重することについて学習を深めることができた。



公開授業の様子